

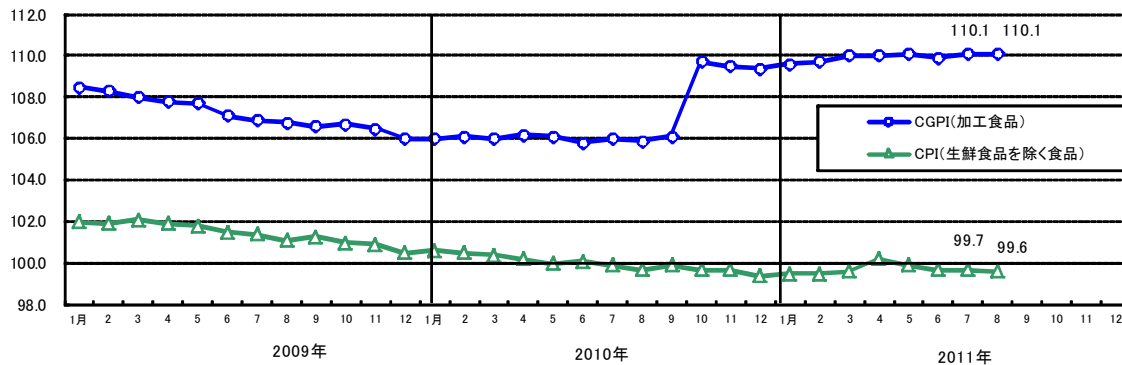
加工食品の物価及び生産・販売動向

1 加工食品の企業物価及び消費者物価の動向

消費者物価は低下から横ばい

加工食VIの企業物価指数は2010年10月から長期下る傾向が上昇に転じ、2011年8月は110.1で高水準を維持している。一方、消費者物価指数(生鮮食VIを除く食VI)は99.6で、長期下る傾向にあつたが、歯止めかかりつゝある。

図1 加工食品の企業物価指数、消費者物価指数



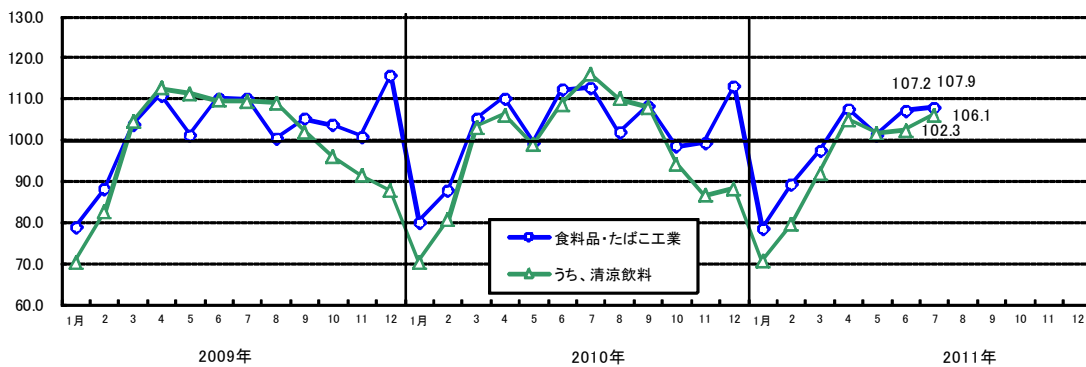
資料: 日本銀行「企業物価指数」、総務省「消費者物価指数」

2 食品製造業の生産動向

食料品・たばこは対前年比で減少、うち、清涼飲料は減少

7月の食料VI・たばこ工業の生産指数は107.9で対前年同月比・4.3%やや減少した。うち、清涼飲料は106.1で対前年同月比・8.5%かなりの程度減少した。震災等の影響等により3月と4月は減少し、5月は増加したものの、6月以降は再び減少に転じている。

図2 食料品・たばこ工業、清涼飲料の鉱工業生産指数の推移



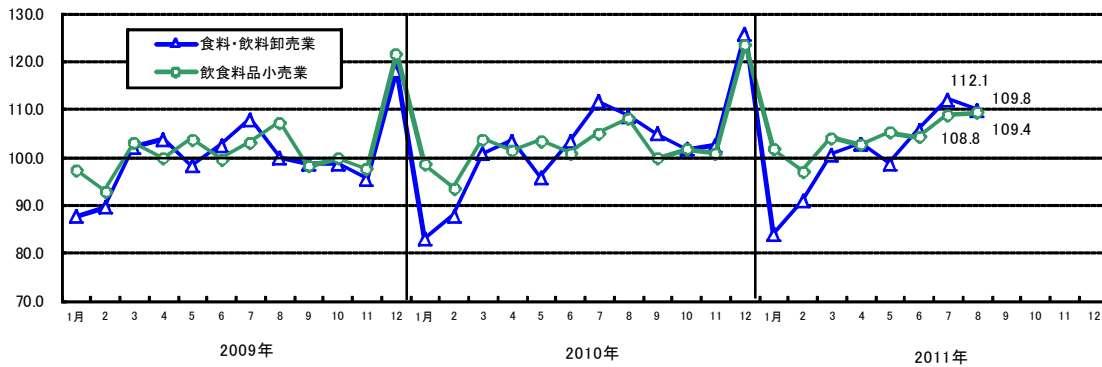
資料: 経済産業省「鉱工業生産指数」

3 卸売業と小売業の販売動向

卸売業及び小売業の販売額はそれぞれわずかに増加

2011年8月の食料・飲料卸売業の販売額指数は109.8で対前年同月比1.2%とわずかに増加した。また、飲食料品小売業の販売額指数は109.4で1.3%とわずかに増加した。

図3 食料・飲料卸売業と飲食料品小売業の販売動向



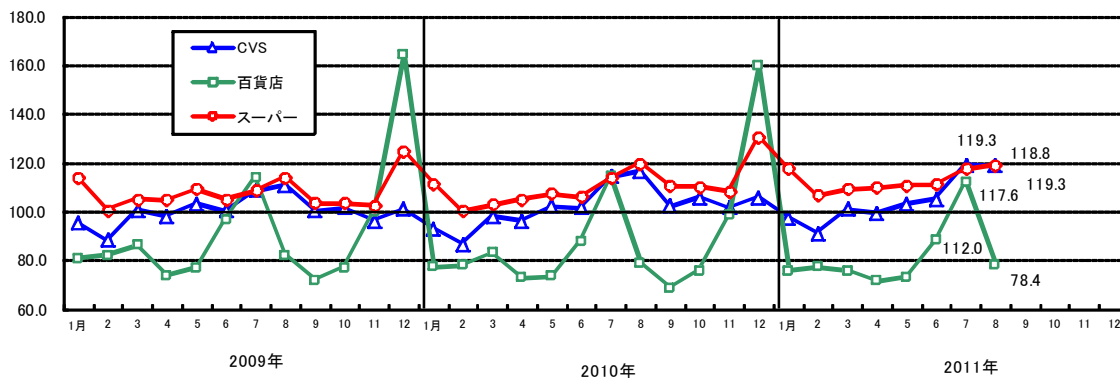
資料: 経済産業省「商業販売統計」

4 スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の加工食品の販売動向

CVSは増加、スーパー、百貨店は横ばい

2011年8月のコンビニエンスストア、百貨店、スーパーにおける加工食品の販売動向についてみると、コンビニエンスストアは118.8で対前年同月比1.9%とわずかに増加した。また、スーパーは119.3で同▲0.4%、百貨店は78.4で同▲0.7%と前年並みになった。スーパーは増加傾向にあったものの、前年の猛暑の反動等により鈍化した。また、百貨店は引き続き減少傾向で推移している。

図4 スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の加工食品の販売動向



資料: 経済産業省「商業販売統計」

注: コンビニエンスストアはFFと加工食品の合計。百貨店及びスーパーは飲食料品。